

公民館訪問NEWS

朝日公民館訪問 ～只見昔ばなしの会～

7月27日(木)、30日(日)只見町で活動する只見昔ばなしの会の活動を訪問しました。只見昔ばなしの会は、昨年度「ニッセイ財団生き生きシニア活動顕彰」において、地域文化の伝承と地域貢献活動に長年携わってきたことが認められ、表彰を受けられました。

27日には顕彰の受賞を記念して、季の郷湯らににおいて昔ばなしに関する講演会が行われました。

また、30日には団体の活動として、朝日公民館(※)において自主講座が開催されました。只見昔ばなしの会は、朝日公民館で年4回の自主講座「昔ばなしを楽しむ会」を企画しています。

※ 今年度から只見町の3か所の振興センターは公民館となりました。また、只見公民館に只見町中央公民館が併設され、公民館事業の中心的な役割を担っています。

【記念講演「昔ばなしの伝承 表現とところ」 ただみ・モノとくらしのミュージアム館長 久野 俊彦 氏】



ほんとうのこと、大切なことを伝えることばは、自分のことばで、親しい人と話すことばです。昔ばなしを語ることは、自分のことばで語ることで、自分を語ることで、昔ばなしでは、ストーリーだけではなく、人生を語ることもあります。

<久野 俊彦 氏>



【只見昔ばなしの会による自主講座「昔ばなしを楽しむ会」】

講座では、会員の方々がそれぞれ得意とされている昔ばなしを聞くことができました。

参加者は2歳から92歳まで、なんと年の差90歳！これぞ生涯学習だと感じました。老若男女問わず学び、よさを味わうことができるのは、昔ばなしのよさですね。



以前、「地域の方に昔ばなしを聞いてもらうことのできる場を設けないか」と、公民館の方から提案があり、この取組が始まりました。

まずは、自分たちが楽しまなければつながっていきません。

昔ばなしの会では、みんなが楽しみながら活動をしています。

<只見昔ばなしの会代表>



公民館の役割の1つとして、学びのコミュニティづくりがあります。

公民館主体で社会や地域住民が求める学びの場を創ることも大切ですが、それを契機に地域住民(個人や団体)が自主的に講座を開設して学ぶという姿が増えてくると最高ですね。

そのために、公民館講座などで、学びを通じた地域住民のネットワークを構築したり、地域で活躍する団体(個人)を取り上げて紹介したりするなど、住民が主体的に学べるような環境を創っていきたいものです。

朝日公民館の担当職員は、「朝日公民館では、太極拳やゲートボール、合唱や書道の団体などが自主的な活動を行っています。公民館でも募集や広報などを手伝えることで、地域住民の自主的な学びを応援しています。今後は保育所や学校にもチラシを配り、対象者を増やしていきたいです。」と話をされていました。

今回取材した只見昔ばなしの会の活動は、まさに生涯を通して学び続ける姿そのものであり、朝日公民館は、そういった団体を支援することで生涯学習の推進を図っているということがわかりました。